

旧

■表紙

タイトル「LandXMLに準じた3次元設計データ交換標準の運用ガイドライン(案) Ver.1.2」

発行年度「平成30年3月」

■p.1

1.1 目的

「LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準(案)」(以下、「データ交換標準(案)」という)

新

■表紙

タイトル「LandXMLに準じた3次元設計データ交換標準の運用ガイドライン(案) Ver.1.3」

発行年度「平成31年3月」

■p.1

1.1 目的

「LandXML1.2に準じた3次元設計データ交換標準(案) - 略称: J-LandXML -」(以下、「データ交換標準(案)」という)

(変更)

旧

■p. 7

4.2.2 河川分野

河川分野で対象とする要素とイメージを図 4-3 に示す。河川分野で対象とする要素は、「堤防法線（平面線形、縦断線形、縦断地盤線）」「横断形状（堤防天端、**計画高水位**、法面、小段、横断地形線）」「表面（河川構造物表面や地形表面など）」となる。なお、河川堤防・護岸を対象としており、河床部は対象としていない。

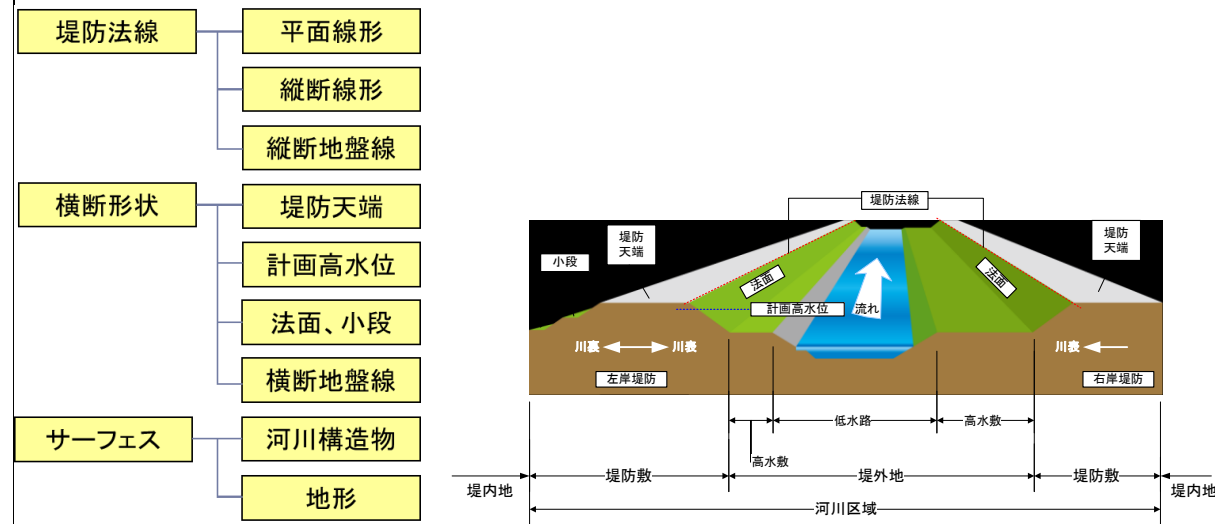


図 4-3 河川分野で対象とする要素とイメージ図

新

■p. 7

4.2.2 河川分野

河川分野で対象とする要素とイメージを図 4-3 に示す。河川分野で対象とする要素は、「堤防法線（平面線形、縦断線形、縦断地盤線）」「横断形状（堤防天端、**土工面**、法面、小段、横断地形線）」「表面（河川構造物表面や地形表面など）」となる。なお、河川堤防・護岸を対象としており、河床部は対象としていない。

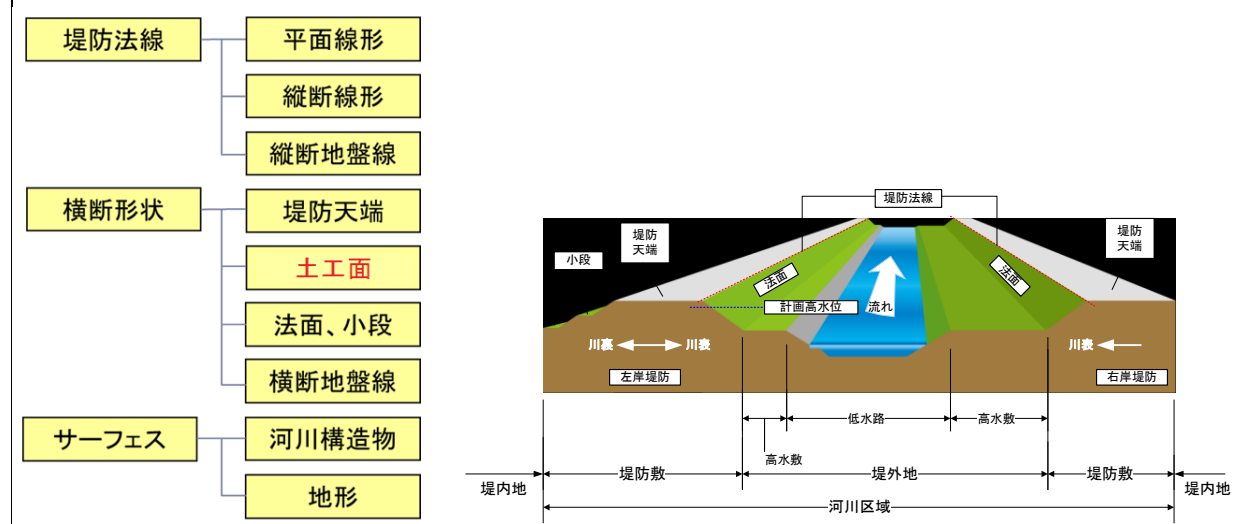


図 4-3 河川分野で対象とする要素とイメージ図

(変更)

旧

■p. 31

5.5 データ必要度

表 5-3 要素または属性の必要度

要素名	属性	必要度	条件
AlignPIs (IP点リスト)			
AlignPI (IP点)			
PI (交点)			
	name (名称)		
	desc (注記)		
Superelevation (片勾配すりつけ)		△	片勾配すりつけ区間が存在する場合は必須
	staStart	△	
	staEnd	△	
BeginRunoutSta (片勾配すりつけ区間の開始)		△	片勾配すりつけ区間が存在する場合は必須
BeginRunoffSta (直線勾配から曲線勾配への移行区間)		△	
FullSuperSta (曲線内最大片勾配区間の開始)		△	
FullSuperelev (曲線内最大片勾配)		△	
RunoffSta (曲線内最大片勾配区間の終了)		△	
StartofRunoutSta (曲線勾配から直線勾配への移行区間)		△	
EndofRunoutSta (片勾配すりつけ区間の終了)		△	
AdverseSE (待ち勾配区間の有無)			

新

■p. 31

5.5 データ必要度

表 5-3 要素または属性の必要度

要素名	属性	必要度	条件
AlignPIs (IP点リスト)			
AlignPI (IP点)			
PI (交点)			
	name (名称)		
	desc (注記)		
SuperelevationConfig (片勾配すりつけ設定)		△	片勾配すりつけ区間が存在する場合は必須
	normalCrown (直線部横断勾配)	△	
	singleLaneRoad (一車線道路)	△	片勾配すりつけ区間が存在し、且つ一車線道路の場合は必須
	useSlopeList (任意横断勾配リストの使用の有無)	△	片勾配すりつけ区間が存在し、且つSuperelevation要素では表現できない場合は必須
slopeList (任意横断勾配リスト)		△	
Superelevation (片勾配すりつけ)		△	片勾配すりつけ区間が存在し、任意横断勾配リストを用いない場合は必須
	staStart	△	
	staEnd	△	
BeginRunoutSta (片勾配すりつけ区間の開始)		△	
BeginRunoffSta (直線勾配から曲線勾配への移行区間)		△	
FullSuperSta (曲線内最大片勾配区間の開始)		△	
FullSuperelev (曲線内最大片勾配)		△	
RunoffSta (曲線内最大片勾配区間の終了)		△	
StartofRunoutSta (曲線勾配から直線勾配への移行区間)		△	
EndofRunoutSta (片勾配すりつけ区間の終了)		△	
ReverseCrown (片勾配すりつけ率の変化点)		△	
AdverseSE (待ち勾配区間の有無)			

(変更)